

## 事業の内容、事業の成果に関する写真

## (ア) 高価値農産物の生産技術普及

## 果樹・野菜栽培技術の普及



昨年度 11 世帯が開始したトマトハウス栽培の成功によって、本年度、ハウスを増やす世帯や、新しく栽培を開始する世帯が増えている。昨年度の 6 ハウスから 3 倍以上の 21 ハウスに増えたコミュニティもあり、収穫後、協同で出荷する話が自発的に進められている。



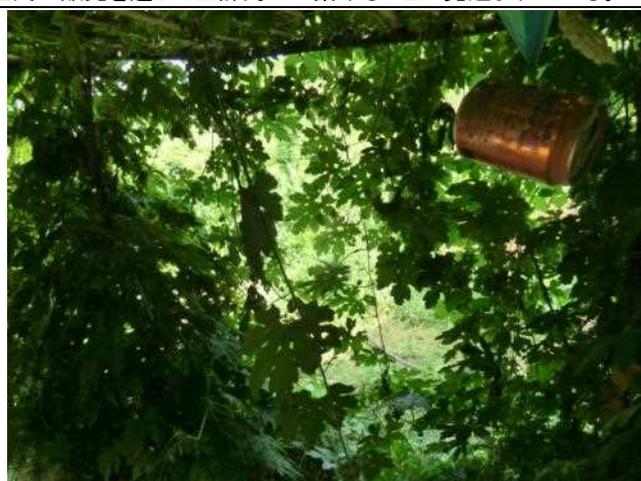
低中地エリアでは、苦瓜、胡瓜、オクラ、ピーマンなどの栽培を開始する世帯が育ってきている。自家消費の他、シンズリ道路沿いのレストラン等に販売が開始されており、1 万ネパールルピー以上の収入を上げる世帯も出てきている。また、イエロートラップやフェロモントラップを用いて害虫管理を行っている苦瓜についてはカトマンズのオーガニックベジタブルショップにおいてトライアル販売が開始された。



夏季も比較的涼しい気候の高地マガール族コミュニティにおいて、新たに水菜、レタスや赤紫からし菜などの葉物野菜の研修を行った。水菜とレタスは 8 月 16 日にカトマンズ近郊で開催された日本人会盆踊りで販売し、完売した。また、昨年度より栽培を行っているキャベツについては、8 月下旬にカトマンズのオーガニックベジタブルショップに卸販売開始予定。



昨年度、各気候帯に適した作物として選定された、温州みかん、ジュナール、ライムの栽培技術普及が順調に進んでいる。本年度に導入したライムについては、107 世帯が苗木を自ら購入して栽培を開始している。ネパールのライム供給は 90%以上をインドからの輸入に頼っており、国内産の需要が大きい。収穫を迎える数年後には、裨益住民が販売を通じて生計向上に繋げることが見込まれている。



果樹・野菜栽培においては、現地に自生する植物と家畜の尿を用いた有機農薬作りや、空き缶を利用したフェロモントラップ作りなどの技術普及も進めている。現在ネパールでは残留農薬が問題になっており、無農薬野菜へのニーズが高まっていることから、本事業の支援によって、環境に負荷をかけない持続的な農法によって生産されている果樹や野菜のマーケット拡大が見込まれている。

#### 家畜飼育・ミルク生産技術の普及



飼料作物を長期保存するサイレージ技術を学んだ裨益住民からは、「給餌した水牛のミルクの量が増えた。」という報告が上がっている。また、衛生的な方法でヤギを去勢する技術普及も進んでいる。ネパールにおいてヤギ肉は祭りの食事として需要が高く、住民の重要な収入源の 1 つとなっているが、これまで住民は非衛生的な方法で去勢処理を行っており、ヤギの感染症などが問題となっていた。

## (イ) 農業生産環境の保全と強化

## 土壌保全技術の普及



昨年度 12 世帯が等高線に沿って植付けを行った飼料作物の内、ネピアグラスや桑の有効性が高いことが確認された。ネピアは水牛のミルク生産に、桑は、ヤギ飼育に適した飼料であることから、本事業で 146 世帯が栽培を開始した。農地の縁や等高線に沿って植え付けることで、土壌浸食改善と、飼料不足改善の効果が得られる。



土作りは農業を支える大切な活動の 1 つであり、土壌マネジメントの研修には、小さな子どもを連れた女性も積極的に参加した。昨年度に導入したミミズ堆肥は施肥した農家によって効果が確認されており、本事業で新たに 10 世帯がミミズ堆肥の生産を開始している。



牛や水牛の尿を液肥や有機農業として活用する循環型の土壌改善技術普及も順調に進んでおり、本事業で、83 世帯が尿を集まるための家畜舎改良を行った。家畜舎改良によって、家畜の衛生状態改善の効果も期待できる。

## 小規模灌漑(自然流下式灌漑、貯水池)の設置



中地エリア(タマンコミュニティ)に建設した自然流下式小規模灌漑、合計 150 世帯が裨益する。灌漑は飲料水の供給も兼ねており、貯水タンクの建設資材である石の切り出しや砂の運搬などの作業には女性も積極的に参加して建設を完了した。



水源に恵まれず水不足に直面していたエリアで整備した貯水池。これまで農作物の栽培は、雨期に主に自給用のトウモロコシを栽培することに限定されていた。裨益住民からは、「乾期に入ったら雨期に溜まった水で野菜栽培を行いたいので、雨期があけたら野菜栽培研修を行って欲しい。」というニーズが積極的に上がっている。

## 裨益住民の生活変化



「事業の支援を通じて、これまでになかったレタスやブロッコリーなどの新しい野菜を栽培することができてとても嬉しいです。家族も色々な野菜を食べることを楽しんだり、収穫した野菜の一部を販売して収入を上げることもできています。ミミズ堆肥作りも進めているので、今後、更に栽培面積を増やしたいと考えています。」

(Shita Magarati/6 区)

「農地が狭く、これまで日雇労働で収入を得ていました。昨年からは始めたトマトハウス栽培で 5 万ネパールルピー近くの収入を得ることができ、農業を中心に生計を立てられるようになりました。今年は更にハウスを増やし、3 ハウスで栽培を行っています。家畜の尿の液肥を施肥したトマトの成長が良くとても嬉しいです。」

(Sharkiman B. K./9 区)